

た (プログラム掲載順).

- 「出生力の指標理論」……………鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)
「外国人に対する意識の規定要因—ESS と JGSS の 比較分析—」
……………小島 宏 (国立社会保障・人口問題研究所)

会員総会では学会の国際化に重点を置き、2014年の世界社会学会議の日本への招致を目指すことが提案され、了承された。シンポジウムは「人口減少社会のゆくえ」「岐路に立つ社会学教育」の2本で、前者では本研究所の岩澤美帆主任研究官がコメンテーターをつとめた。(鈴木 透記)

日本地域学会第43回 (2006年) 年次大会

日本地域学会第43回 (2006年) 年次大会は、2006年10月7日 (土) ~ 9日 (月)、千葉商科大学において開催され、研究報告等が行われた。地域学という分野の性質上、人口に関係する研究は少ないが、今大会では「人口」をテーマとするセッションも設けられた。このセッションは8日 (日) の午前に開かれ、構成は次のとおりであった。

- 「国内長距離人口移動の決定因の時期的変化について」……………伊藤 薫 (岐阜聖徳学園大学)
「都市人口の空間分布に関する計量分析」……………加藤尚史 (名古屋大学)
横地浩紀 (名古屋大学)
「中国の省間所得格差と人口移動—31省モデルによる分析—」
……………坂本 博 (国際東アジア研究センター)

伊藤氏は、日本を10の地域に分けて1955年から2000年までの人口移動を分析し、所得および自然・社会環境アメニティの影響を調べた。加藤氏と横地氏の研究については、横地氏が口頭発表を行い、人口分布を表すモデルを提示して名古屋市における適合性を示した。坂本氏は、中国における地域間の所得格差に注目し、人口移動が経済に及ぼす影響をシミュレーションによって分析した。なお、これらの3報告のそれぞれに対して討論者2名が予め選ばれており、活発な質疑応答が行われた。筆者は横地氏の発表において討論者を務めた。(今井博之記)

2006年人文地理学会大会

2006年人文地理学会大会が、2006年11月11日~13日、近畿大学本部キャンパス (大阪府東大阪市) において開催された。口頭77件、ポスター4件の計81件の一般発表、および4件の特別発表が行われた。人口関連分野については、移民や都市に関連したものをはじめとする報告がなされた。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

- 「移民問題に表象される現代スペイン社会の変動」……………長岡 顕 (明治大学)
「台湾における少子化と教育問題」……………塩川太郎 (中山医科大学)
「ラオス農村の出生力変動と土地利用・人口移動